

いせ毎日

発行所 伊勢市船江2-1-6
 事務局 毎日新聞伊勢支局内
 編集室 いせ毎日編集室
 伊勢市岩淵1-15-26
 電話 (0596) 24-1234
 FAX (0596) 21-0174
 メール ise-mai@maing.co.jp

毎日新聞専売所 0596
 伊勢専売所 28-4204
 伊勢北部専売所 23-7232
 伊勢南部専売所 24-4806
 伊勢東部専売所 26-3121
 大湊神社港専売所 36-2397
 川端専売所 27-6513
 豊北専売所 37-2417
 小俣町専売所 29-5133
 玉城専売所 58-2506
 二見専売所 43-2143
 鳥羽専売所 0599 25-4516

起業家の夢着々と

スキルとアイデアで挑戦中

伊勢市産業
支援センター

伊勢市の産業活性化を目指す伊勢市産業支援センター(同市朝熊町)を利用する起業家の活躍が注目されている。利用者の業種は、ホームページ制作、産業用無人飛行機の観測機、コンサルティングなどさまざま。年齢に関係ない起業家たちの夢が一つずつ動き始めている。(文)



「おかげベンチ」で事業を始めた辻村代表

同センターは起業家のビジネスサポートを目的に国の補助を受け昨年4月に設立。本棟に、起業家支援室5室と4分割できる起業準備支援室、相談室などがある。使用料は低価格で、創業支援員の無料個別相談や、365日24時間利用できる。

起業準備支援室の利用者は、主に創業への計画を練りながらスキルを積んでいる。足りないものに気がつき、修行に出る人において、「一歩踏み出すきっかけの

場所」と位置づける。

一方、起業家支援室の利用者は、事業を展開した方、夢に向かいしっかりと基盤固めをしている。08年度は4社が利用しており、今年も満室状態。

事業を展開

伊勢の伝統薬「萬金丹」と「百毒下し」の複製・リニューアルを手掛けるパイ・メデイテック(加藤宏明社長)は、おぼらい町で黒糖風味の「萬金飴」と健



康食品「萬金丹」を昨年11月から販売し写真。一年来は「萬金丹」を厚生労働省の医薬部外品の認定を取得してランクアップさせ、伝統ある「萬金丹」の名で販売を」と意気込む。

眞じん堂(辻村みづ代表)は、間伐材を用いた広告ベンチ事業を展開。年1度のメンテナンスを真が委託する障がい者人材センターに任せ、森林保全と街の景観、障がい者の自立支援を結びつけたアイデアが好評。腰掛けの高さ37センチと安定感あるベンチで、背もたれに広告プレートが入る。今年2月に県のみえ地域助成対象事業に認定され

た。「おかげベンチ」と名付け、近鉄宇治山田駅や二見眞玉神社、アズピア玉城などに計20基を設置。「遷居を控えた伊勢がモデルになって各地にも広げたい」と意欲を燃やしている。

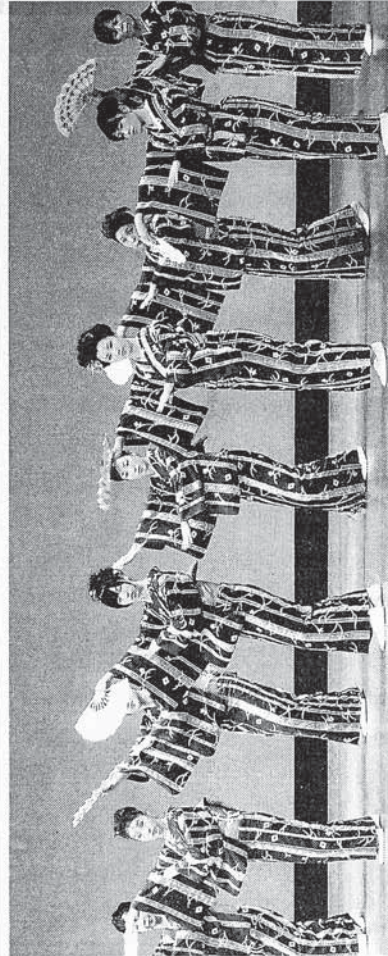
同市産業支援課は、「成功と存続は難しいが、起業家のベースはここで築ける。骨太の企業になってほしい」と話す。同課は、創業支援員の無料相談を一般からも受け付けている。問い合わせは(0596・63・5677)へ。(文)

再会願う
赤いハンカチ

豪華客船をお見送り

鳥羽

鳥羽港に寄港した豪華客船「ばしふいっこびいす」(2万656ト、日本クルーズ客船)を8月18日夕、眞珠王・御木本幸吉の故事に倣い、再会を願う市民約80人が赤いハンカチ



チャリティー舞踊会 6流派が集結

県日本舞踊(会長)の「第8月28日、伊で開かれた。人がけいこ同協会は、徳塚流、西川たちで作られた今年も、流白の獅子が勇躍舞う。忘れる一鈴のやかで美しい。終演後、伊勢市母子家庭してほしい」と協議会に寄贈